

特集

# 地域の“足”を考える

～みんなで守り、未来へつなごう公共交通～

鉄道やバス、タクシーなどの公共交通は、地域の“足”として、私たちの生活に欠かせない存在です。

しかし、公共交通の利用者は年々減少しており、特に路線バスを取り巻く環境は厳しい状況です。

今月号では、路線バスにスポットを当て、現状や公共交通の役割、今後の取り組みなどを紹介します。





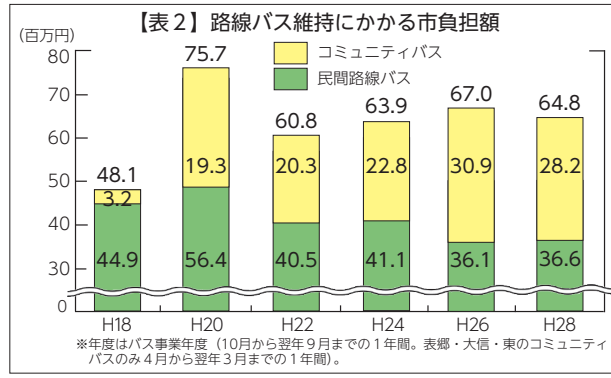
# 路線バスの現状と公共交通の役割

本市の路線バスは、JR白河駅を拠点として、市内や近隣町村とを結ぶ路線が福島交通(株)とジェイアールバス関東(株)により運行されています。また、市では、コミュニティバスとして、駅・公共施設・商業施設・医療機関などを巡回する「こみねっと」(市循環バス)のほか、表郷・大信・東の各地域巡回バスを運行しています。

路線バスは、通勤・通学、通院、買い物、公共施設の利用など、住民の日常生活の足として、自動車を運転できない学生や高齢者などにとって、特に欠かせない移動手段となっています。



▲白棚線(白河東工業団地～古閑間)を走るJRバス



## 増え続ける公費負担

市では、公共交通サービスの低下を防ぐため、一部の民間路線バスの運行経費を負担し路線を維持しているほか、バス事業者に委託してコミュニティバスを運行するなど、移動手段の確保に努めています。

しかし、路線バス利用者の減少には歯止めがかからず、国の補助金の有無により多少の増減はありますが、路線の維持にかかる市の負担額は、年々増加しています(表2)。



## 公共交通の果たす役割

利用者の減少や路線維持にかかる公費負担の増加など、路線バスの運行を維持していくことは依然として厳しい状況にあります。しかし、日常生活に必要な移動手段としての役割に加え、近年増加する高齢運転者の交通事故への対応や、環境問題、活力あるまちづくりの観点など、様々な分野で、路線バスをはじめとする公共交通の果たす役割は大きくなっています。

## 地域住民の移動手段の確保

公共交通は、地域の“足”として、自動車を運転できない学生、高齢者などの日常生活を支えています。

現在は公共交通を利用していない人にとっても、将来、自動車を運転できなくなったときなど、公共交通は重要な移動手段となります。

## まちのにぎわいの創出

公共交通が充実し利便性が向上すれば、買い物や地域活動などで多くの人がまちに集い、にぎわいが創出されます。

公共交通が充実している地域は、利便性が高く、生活しやすいまちとして評価され、人口の流出防止や定住促進など、人口増加にもつながることが期待されます。

## 環境負荷の軽減

世界的な問題となっている地球温暖化防止の観点から、自動車が排出するCO2(二酸化炭素)の削減は大きな課題となっています。

一人あたりの輸送におけるCO2排出量が自家用車と比べて少ない公共交通を利用することで、地球温暖化防止に大きな効果が期待されます。

## ～公共交通の役割～



## コンパクトシティの実現

今後も人口減少が避けられない状況のなかで、地域で生活し続けるためには、医療・福祉・教育・商業などの都市機能を集約化したコンパクトなまちづくりの推進が不可欠となります。

公共交通は、諸機能が集約した拠点どうし、あるいは拠点と居住エリアを結ぶ重要なネットワークの役割を担います。

## 生きがいづくりや健康増進

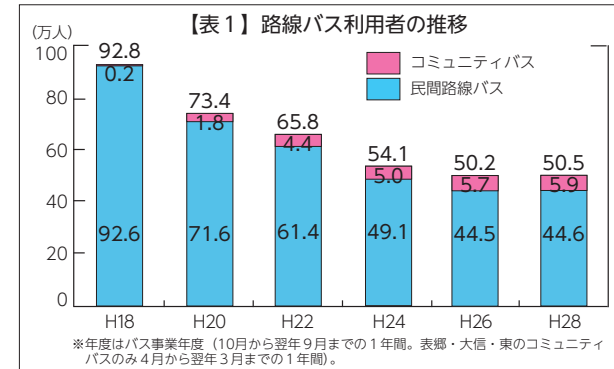
公共交通の充実、自動車を運転できない高齢者などに、コミュニティ活動や様々な外出の機会を提供し、生きがいづくりにつながります。

通勤や買い物などの移動手段を、普段の自家用車から公共交通に替えることで、駅やバス停までの移動で歩く機会が増え、運動不足を解消し、健康づくりにも貢献します。

## 地域間の連携強化や人の交流の活発化

公共交通は、住民だけでなく、通学や観光客など他地域からの来訪者の移動手段でもあります。

移動の利便性や回遊性の向上により、地域間の連携強化や人の交流の活発化が図られます。

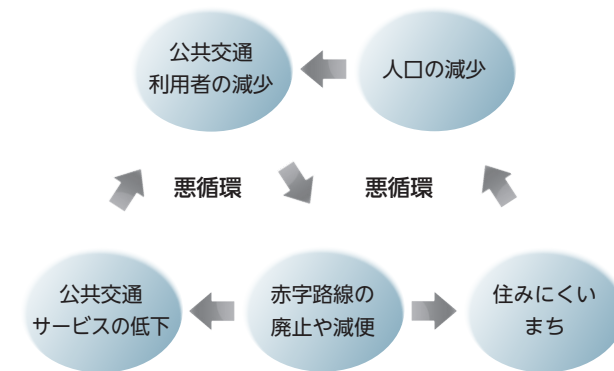


## 路線バス利用者の減少

人口減少や自家用車の普及などを背景に、全国の地方都市で路線バスの利用者は減少しています。本市でも、平成19年10月に運行を開始した「こみねっと」などのコミュニティバスの利用者は増加していますが、路線バス全体で見ると、平成18年度に約92万8千人いた利用者は、平成28年度には約50万5千人と、この10年間で5割強に落ち込んでいます(表1)。

## 利用者減が悪循環を生む

路線バスの利用者が減少し運賃収入が少なくなると、路線の維持が困難となり、路線の廃止や減便を検討しなければなりません。路線の廃止や減便が行われると、公共交通サービスが低下し、さらに利用者が減少するといった「悪循環」に陥ってしまいます。本市でも、利用者の減少により、平成18年度から21年度にかけて、路線の廃止や減便が行われました。





《地域公共交通網形成計画の策定方針》

- まちづくりと一体となった公共交通網の整備
- 住民ニーズに対応した交通手段や事業の検討
- 地域間の連携や交流を促進する公共交通体系の構築
- 観光の取り組みと連携した公共交通サービスの充実・強化

市では、平成21年度に策定した「地域公共交通総合連携計画」に基づき、路線バスの運行ルートやダイヤの見直し、利用者の増加に向けた取り組みを実施してきました。計画策定から8年が経過し、道路交

地域公共交通網形成計画の策定

成計画」を、今年度新たに策定します。

みんなで守り、未来へつなごう公共交通

全国の地方都市では、経営が悪化した鉄道やバス、タクシー事業者の撤退により地域の「足」が失われ、日常の買い物や通院が不便となる「交通難民」が増えています。「自動車」が急増しています。そのため、路線バスはあったほうがよい」と考える方は多いですが、このまま利用者が減り続けるといざ必要時に路線が無くなっているかもしれない」という危機感を、私たち一人ひとりが認識しなければなりません。

この機会に、路線バスを利用して買い物や観光に出掛けてみる、月に何日かは通勤に公共交通を利用してみるなど、まずはできることから始めてみませんか。

住みやすく、活力に満ちた地域社会を実現するために、地域全体の力で公共交通を維持し、活性化させていきたいと思います。

公共交通は利用してはじめて成り立ちます



白河市地域公共交通活性化協議会 副会長 吉岡 正彦 先生  
ふくしま自治研修センター 総括支援アドバイザー兼教授

「白河市地域公共交通活性化協議会」とは？

これまで公共交通は、事業者が中心となって運営してきました。しかし、利用者の減少に伴う路線廃止等により、地域全体に必要な公共交通を確保していく必要が出てきました。そこで、利用者・事業者・道路管理者・市の関係者等が集まり、ともに公共交通のあり方を考える場として、平成21年3月に発足しました。

■主な取り組みを教えてください

平成21年度に策定した計画に基づいて、公共交通の運営や維持管理をチェックしたり、利用者の要望や

道路状況等を踏まえ、運行ルートやダイヤの見直しを行っています。

今年度策定する新計画には、急増する高齢運転者の事故といった問題対策なども盛り込みたい、と考えています。

■今後の公共交通について

「自分たちが利用しなくても、公共交通は自治体がやってくれる」という意識は変えなければなりません。利用しなければ、路線の維持はできないのです。公共交通を自分たちの「足」として、いかに確保していくかを考えるために、住民の皆さんの関わりが必要ではないでしょうか。

Interview

路線バスへの想いを聞きました

バスを利用したまちおこしができれば



ジェイアールバス関東(株) 白河支店 支店長 藤岡 孝二 先生

現在、白棚線開業60周年を記念して、SLラッピングバスを運行しています。幼稚園にご利用いただいたりと、好評なんですよ。

また、全国初となるスマホ定期券の導入など、お客様の利便性向上にも取り組んでいます。白棚線沿線には、まだ知られていない見所がたくさんあります。週末のお出掛けに、ぜひバスを利用してみてはいかがでしょうか。

安全運転が何よりも大事ですね



福島交通(株) 白河営業所 運転士 金田 政志 先生

30年近く乗務していますが、ハンドルを握ったら適度な緊張感を持つことが大切です。事故は「無くて当たり前」と、後輩運転士にも指導しています。また、ブレーキやカーブの際にバスを揺らさないよう、気を付けて運転しています。ご高齢の方はもちろん、学生さんにもっとバスを利用していただいで、車内がにぎやかになるとうれしいですね。

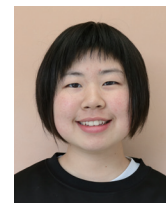
買い物や通院のため、週3回こみねつとを利用しています。停留所が自宅の近くにあり、すぐに乗れるので、なるべく多く出掛けるようにしています。バスの中で顔見知りになった方と、おしゃべりするのが楽しいです。バスの種類によっては、車内の通路が狭く乗りにくいものがあるので、改善されるといいですね。

平山 由美子さん (鬼越)



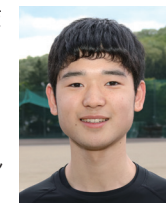
下校時間が早いときなど、月に数回利用しています。ICカード「NORUCA (ノルカ)」で運賃を支払えるので、便利です。ただ、私が利用しているバスは本数が少なく、不便を感じることもあるので、本数を増やしてくれると助かります。学生料金がさらに安くなるとうれしいです。

鈴木 陽順さん (白河高2年)



週末の部活動の日も含めて、ほぼ毎日利用しています。バスの中では、単語帳を見たり、テスト勉強をしたりしています。先日、お年寄りに席を譲っている方を見て「かっこいいな」と思い、私も実践してみました。そんな経験ができたのも、バス通学をしているからだと思えます。

佐久間 大空さん (白河高2年)



「こみねつと」のお知らせ

《日曜・祝日等試験運行》

現在、こみねつとは、日曜日と祝日（祝日が土曜日の場合は運行）、年末年始は運休していますが、観光やイベント参加のための移動手段としても利用できるよう、日曜・祝日等試験運行を実施します。

- ▷運行期間 6月4日(日)～平成30年3月25日(日) ※日曜・祝日等54日間(12月31日、1月1日を除く)
- ▷運行本数 中循環・南循環ともに始発便を除く各5便
- ▷運賃等 1回乗車につき大人(中学生以上)200円、こども(小学生)100円、乳幼児 無料 ※ふれあいパス・回数券等は、通常どおり利用できます。

《一日乗車券試験販売》

日曜・祝日等試験運行にあわせ、同日内であれば何度でも利用できる一日乗車券を試験販売します。「白河らーめんクーポン券」付きのお得な乗車券で、ラーメンの食べ歩きにも便利です。この機会にぜひお買い求めください。

- ▷販売期間 6月1日(木)～平成30年2月28日(水)
- ▷販売価格 大人(中学生以上)400円、こども(小学生)200円
- ▷販売窓口 こみねつと車内、ジェイアールバス関東(株)白河支店、福島交通(株)白河営業所、えきかふえSHIRAKAWA

公共交通に関するお問い合わせ 本庁舎企画政策課 内線 2326